

1. 学校概要	
フリガナ 学校名	チバシリン オイハマ 千葉市立生浜西小学校
全学級数	13学級
全児童数	383名
全教職員数	22名
活動体験の観点から見た 学校環境	生浜西小学校は、JR浜野駅が最寄であり、千葉県の南端に位置している。徒歩圏内に京葉工業地帯があり、工業地帯沿いの国道16号線は交通量が非常に多い。その一方、学校周辺は静かな住宅街で、一部には田園も残っている。児童は、素材で元気な子が多い。工場が近くにある市街地にあるので、自然体験が豊かとはいえず、人間関係が豊かとはいえず、人間関係を学ぶ場も少ない。また、物質面に恵まれ、あまり不自由な思いをすることがなく生活している児童は、感謝の気持ちにやや欠けている。家では、依頼心が強く自ら行動を起こす経験が少ない。
連絡先	住 所 千葉県千葉市中央区塩田町316-1
	電 話 番 号 043(264)0013
	FAX 番 号 043(268)5849

2. 活動に関する学校の全体計画	
対象学年・児童数	6年・70名
実施時期	平成21年8月21日(金)～8月25日(火)
活動場所	長野県伊那市長谷市野瀬
活動のねらい	(1) 大自然のすばらしさを肌で感じ取り、地域による違いに気付き、長野と千葉のよさを発見する。 (2) めぐり合った人々とのかかわりを大切にし、他人を思いやる気持ちや感謝の心をはぐくみ、一人一人の個性を発揮する。 (3) 親元を離れ、仲間との集団生活やホームステイなどを通して、お互いに気を配り、協力し合って生活することを通して自主性・創造性を伸ばす。
児童一人当たりの概算費用	児童一人当たりの費用 23,576円 事業費助成(文部科学省) 11,576円 保護者負担 12,000円

体験活動名	全活動時間 (時間)	教育課程上の位置づけ	児童の活動内容
ホームステイ先での交流と奉仕活動	3	学校行事(遠足・集団宿泊的行事)	ホームステイ先のご家族の方々にきちんと挨拶したり、部屋の掃除、庭の草取りなど家事手伝い等を行う。
長谷地区の風土に関する調査活動、鹿嶺高原等での散策、自然観察	5	学校行事(遠足・集団宿泊的行事)	事前に調べたことをもとに長谷地区のフィールドワークを行ったり、標高1000メートル以上の鹿嶺高原で自然散策をしたり、夜の星空観察などを行ったりした。
ホームステイ先での農業体験	2	学校行事(遠足・集団宿泊的行事)	ホームステイ先の方々の協力により、農業体験や出荷作業などを行う。
伊那市長谷の文化体験(長谷太鼓、民話等)	5	学校行事(遠足・集団宿泊的行事)	長谷地区に残る伝説を、地元の方から民話として伺った。事前調査やフィールドワークと併せて理解が深まった。
伊那市長谷小学校との交流活動(地域発見ウォークラリー等)	5	学校行事(遠足・集団宿泊的行事)	お互い自分たちの暮らす地域の紹介をしたり、自己紹介ゲームをしたりして交流を深めた。後半は、グループごとの交流活動を行った。

3. 活動内容

事前指導	総合的な学習の時間を使って、留学先の自然や文化を調べたり、自分のめあてを決めたりする。また、特別活動でグループ分け等を行う。 (1) 6月 教室にて、説明会 児童のめあてづくり 班編成、役割分担 (2) 6月下旬 教室にて、総合的な学習の時間で「伊那市長谷」について調べる。 (3) 7月 生浜西小体育館にて、寒川小学校とごうどうで結団式 自己紹介 仲間づくりゲーム めあての確認 フィールドワークのコースを確認
事後指導	国語及び総合的な学習の時間を利用して、お世話になった人々へのお礼状を書いたり、留学を通して学んだことを新聞等に発表したりする。保護者への発表会を設け、自分の成長したことを話す機会とする。 (1) 9月上旬 ホストファミリーへのお礼の手紙を書く (2) 9月中旬 農山村留学の思い出を新聞(作文)に書く (3) 11月 留学発表会にて、農山村留学の体験発表会を行う

宿泊先

地 域 名	施 設 名
伊那市長谷地区	伊那市観光株式会社 氣の里「入野谷」
〃	島嶺高原キャンプ場 雷鳥荘
〃	民宿 (伊那市長谷地区の民家18軒に分宿)

日程

1日目(8月21日)	2日目(8月22日)	3日目(8月23日)
06:10 学校集合、出発式	06:30 起床	06:30 起床
06:30 学校出発	07:30 朝食	07:30 朝食
12:00 昼食	08:00 荷物整理	09:00 ホームステイ先でそれぞれ活動
14:00 伊那市長谷入野谷、入村式	08:30 バスで長谷に移動	
15:30 バスで鹿嶺高原へ移動	10:00 長谷総合支所よりフィールドワーク	15:15 入野谷へ児童戻る
16:30 鹿嶺高原到着	12:45 昼食	16:00 自由時間
18:00 夕食	15:00 ホームステイ先へ	18:00 夕食
19:00 星を観る会	18:00 夕食	19:00 民話を聞く会
21:30 リーダー会議	19:00 入浴	20:30 リーダー会議
22:00 就寝・消灯	22:00 就寝・消灯	22:00 就寝・消灯
4日目(8月24日)	5日目(8月25日)	
06:30 起床	06:30 起床	
07:30 朝食	07:30 朝食	
09:00 バスで長谷小学校へ	09:00 部屋清掃・荷物整理	
10:20 長谷小学校との交流会 ※新型コロナウイルス対応のため中止	09:40 退村式	
12:00 昼食	10:30 入野谷発	
13:00 グループごとの交流会	16:30 学校到着、到着式	
16:45 入野谷着	16:40 解散	
18:00 夕食		
19:00 イベントタイム		
20:00 入浴		
22:00 就寝・消灯		

4. 体験活動の実施体制

(1) 学校の指導（支援）体制

学校を挙げて実施する際の体制整備について

- ・「上伊那地域農山村留学実行委員会」として千葉市立寒川小学校と共同で実施する。
- ・児童の活動に支障のないように引率教員の確保
- ・養護教員の確保
- ・教務主任を中心においた長野と千葉との連携体制
- ・学校評議員及びPTA役員との連携による意見聴取
- ・長野と千葉との連携体制

(2) 配慮事項等（安全確保のための改善点、衛生上の留意点等）

(1) 安全確保

- ① 合同実施校の寒川小学校の実行委員会を組織し、安全確保に向けた事前打ち合わせを繰り返し実施した。
- ② 事前下見を2回行い、活動場所の事前点検を実施した。
- ③ 緊急対応時の連絡系統を事前に十分確認した。

(2) 衛生上の留意点

- ① 食物アレルギー等について事前調査し、食事のメニュー等の事前調整を実施した。
- ② 食中毒を配慮した調理実習の事前指導を実施した。また、調理前における手洗いを徹底指導した。
- ③ 新型インフルエンザへの対応について事前に協議し、対応策を徹底した。
- ④ 弁当類については、事前に腐食の点検を励行し、残飯処理を徹底した。

5. 活動の成果

児童や教師の感想に加え、「自分にまかされた仕事は、しっかりできる」や「新しい友達を作ることができる」など25項目について、5段階の自己評価を事前と事後に行い、その変化をまとめた。

- ① 事前調査の平均値が4.02とかなり高く、それ以上の向上を望むことが難しいが、「朝、自分で起きる」（事後の値－事前の値0.24）「自分に任された仕事はしっかりできる」（同.0.15）「自然の中の活動は気持ちがよい」（同.0.13）「新しい友達を作る」（同.0.11）の事後調査の平均値が向上した。これらは、長野県長谷地区の豊かな自然の中で、違う学校の友達と様々な活動を通して得られた成果と考えることができる。
- ② 向上が認められなかった項目は、「遊んでいる仲間に自分から加わろうとする」「できないことがあると、できるだけ頑張る」であり、人や物に積極的に関わることで不足していたと考えられる。

6. 保護者からの声

- （1）行く前は少し不安もありましたが、充実した貴重な時間を過ごせたようで、帰って来るなり、たくさんのお土産話をしてくれました。疲れた顔の奥に何かをやり遂げたような満足感を感じました。
- （2）長谷の方々が、子どもたちをあたたく迎えてくださったことに感謝しています。家に帰ってから、ステイ先の方々に野菜を送っていたきました。娘もびっくりしましたが、改めてステイ先の方々の子どもたちに対する熱い思いに感激しました。

7. 児童からの声

- （1）千葉市とは景色がまるで違う長谷での5日間は夢のようでした。長谷の町を歩き、いろいろな方に声をかけていただき、うれしかったです。ホストファミリーの方々はとても親切にしてくれました。流しそうめんや、農作物の収穫の手伝い、川遊びなどで千葉市ではできない体験をすることができました。
- （2）あたたく迎えてくれたホームステイの家のみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。川で遊んだり、陶芸をしたり、とても楽しかったです。長谷のよさをたくさん感じる事ができました。
- （3）ほかの小学校の友だちとなかよくなる事ができました。はじめは少し心配でしたが、すぐに友だちになることができ、うれしかったです。たくさんの方々ができた、楽しさいっぱいの農山村留学でした。

8. 取り組み前の課題とその解決策

(1) 課題

- (1) 合同実施校との事前調整
- (2) 児童の情報チェック
- (3) 児童の健康状態の情報提供

(2) 上記課題に対する解決策

- (1) ふだんはほとんど交流のない2校での合同実施だったので、結団式を充実させた。自作の名刺交換会をしたり、仲間作りゲームをしたりして、児童の心の結びつきが深まるよう配慮した。また、両校の教職員が事前に緊密に連絡を取り合い、ひとつの学校として事業に参加できるように準備を心がけた。
- (2) 児童には実施1週間前から、「健康チェック」をさせた。その結果を健康カードに記入し、体調の変化に留意した。
- (3) 伊那市長谷支所の担当者と連絡を取り合い、児童の健康状態に関する情報や保護者からの依頼事項について、事前に情報提供をした。このことで、保護者からも安心してホームステイ先に送り出すことができ、児童も自分のことがわかってきているという安心感につながった。

9. 活動地域の選定で決め手となったポイント

- (1) 受入地域の体制が整備されており、体験活動やホームステイ先との調整等が十分に行える機能を備え、安全対策がしっかりととられている点。
- (2) 本校からの問い合わせに対し、迅速かつ適切に対応されている点。
- (3) 自然環境が素晴らしいこと。
- (4) 地元の方々がたいへん協力的で理解があり、子どもたちを優しく温かく迎えてくださる点。

10. 実施までの経過

H20. 8 「平成21年度千葉市農山村留学推進事業」参加校のひとつとして、「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」に応募することを決定。

10 千葉市教育委員会と協議のうえ、候補地を「長野県伊那市長谷地区」とすることに決定。

H21. 2～3 事業計画書を立案

4 長野県農山村留学推進事業に参加する全小学校との合同全体会

保護者説明会を開催し、本事業の概要を説明

6 校長、教務主任、6学年主任等で、長谷支所担当者およびホームステイ先に挨拶し、体験活動を実施予定地域の事前調査を実施。

第2回保護者説明会

7 2校合同結団式（生浜西小学校、寒川小学校）

8 事前学習会

1. 学校概要

フリガナ 学校名	ワシノミヤウリロダツシノミヤウリダツロウ 鷺宮町立東鷺宮小学校 (平成22年3月市町合併により、現在は久喜市立東鷺宮小学校)		
全学級数	15学級		
全児童数	473名		
全教職員数	23名		
活動体験の観点から見た学校環境	本校は、東鷺宮駅より徒歩10分の場所に位置し、住宅やマンションが建ち並び人口が増加している地域である。 校内敷地には学校農園があるものの作付面積は狭く、日当たり環境も良好ではない。また、校区のほとんどが住宅地となっており、農業体験を行う機会は少ない。		
連絡先	住所	埼玉県久喜市桜田3-10-1	
	電話番号	0480-59-3122	
	FAX番号	0480-59-3120	

2. 活動に関する学校の全体計画

対象学年・児童数	第5学年・62名 平成21年5月27日(金)～29日(日)→7月3日～5日実施(新型インフルエンザのため)		
実施時期	第6学年・70名 平成21年10月1日(土)～2日(日)		
活動場所	新潟県十日町市赤倉集落		
活動のねらい	(1) 赤倉地区の農家に少人数の分宿をし、農村の生活を実際に経験するとともに、家族との触れ合いを大切にする。 (2) 児童の体験的実践的な活動を重視し、集団生活に対応できる子どもを育てる。 (3) 地域環境の異なる子どもたちやお年寄りの方たちとの交流を通して、多様なものの見方や考え、感じ方などの社会性の向上を図る。 (4) 鷺宮地区との比較を通して、新潟県十日町市赤倉地区との文化・自然・産業の違いについて感じ取ることができる。 (5) 昔からの伝統技術の「わら草履作り」を体験すると共に、地域の方々との交流を深める。		
児童一人当たりの概算費用	保護者負担 5年生…19,000円 保護者負担 6年生…12,600円	※従来、自然体験教室として赤倉集落で同じ内容で実施してきており、その保護者負担額と同額で設定した。事業費助成(文部科学省)は、①事業報告書の印刷費用 ②5・6学年以外の他学年教職員の本活動への同行研修費に充当した。	

体験活動名	全活動時間(時間)	教育課程上の位置づけ	児童の活動内容
農業体験(5年)	3	総合的な学習の時間	赤倉地区の田畑を借り、田植えをしたりサツマイモの苗を植えたりする。
清水峠ハイキング(5年)	2	総合的な学習の時間	ハイキングを通して、現地の自然を堪能する。
手作り体験(5年)	2	総合的な学習の時間	赤倉地区の伝統工芸品である藁草履を現地の方々のご指導を受けながら作る。
農業体験(6年)	3	総合的な学習の時間	5年生が春に植えた稲やサツマイモについて収穫を行う。
ウォークラリー(6年)	2	総合的な学習の時間	オリエンテーリングとハイキングの融合型活動で、現地の自然を堪能する。
餅つき体験(5・6年)	1	総合的な学習の時間	現地の方々のご指導のもと、一人ひとりが餅つきを行い、昼食とする。

3. 活動内容	
事前指導	(1) 5年生 - 山間部に住む人々の暮らしの様子や植物の様子について調べ、現地の生活についての理解を深める。(4月の実地踏査時の写真、ビデオを提示) - 自然体験教室のグループ分けや役割分担等を決め、実施に対する意欲を高める。 (2) 6年生 - 山間部と鷺宮町と都市部の生活についての調査を行い、自然や文化の違いについての理解を深める。 - 自然体験教室のグループ分けや役割分担等を決め、実施に対する意欲を高める。 ※5,6年生共通で、鷺宮町内のボランティアによる田植えの方法や稲刈り鎌の使い方などの事前指導を実施。
事後指導	5年生・6年生 - 体験活動発表会を実施し、自らの体験について整理し、以後の生活に生かせるようにする。 - 赤倉地区の人々へのお礼の手紙を書き、お世話になった方々への感謝の気持ちを表す。 - お世話になった家庭に年賀状を書き、心の交流の継続・深化を図る。

日程		
5年生 1日目 (5月29日)	5年生 2日目 (5月30日)	5年生 3日目 (5月31日)
07:00 学校集合、開校式	06:30 起床	06:30 起床
07:30 学校出発	07:00 朝食	07:00 朝食
11:00 十日町市道の駅キナーレ 買い物・昼食・体験学習・入浴	08:10 各家庭出発	08:10 各家庭出発
16:30 赤倉到着 自然体験教室開校式 各家庭へ	08:30 農業体験 (田植え・サツマイモ苗植え)	08:30 赤倉小学校にて運動会 並びに餅つき大会
17:00 キャンプファイヤー	11:00 清水峠ハイキング (昼食)	12:00 昼食会
18:30 夕食	13:30 わら細工体験	13:00 お別れ会 自然体験教室閉校式
19:30 各家庭へ	16:00 各家庭へ (入浴)	13:30 赤倉出発
20:00 健康観察・就寝準備	18:30 赤倉小学校にて夕食会 並びに交流会	17:00 学校到着、閉校式
21:30 消灯	20:00 各家庭へ	
	20:00 健康観察・就寝準備	
	21:30 消灯	
6年生 1日目 (10月3日)	6年生 2日目 (10月4日)	
07:10 学校集合、開校式	06:30 起床	
07:30 学校出発	07:20 朝食	
10:50 十日町博物館見学	08:10 各家庭出発	
12:00 十日町市道の駅キナーレにて 昼食、買い物	08:30 ウォークラリー	
13:00 赤倉到着 自然体験教室開校式	11:00 餅つき大会並びに昼食会 およびお別れ会	
13:30 農業体験学習 (稲刈り・芋ほり)	12:40 自然体験教室閉校式	
16:30 各宿泊家庭へ移動	13:00 赤倉出発	
17:30 赤倉小学校集合 夕食会並びに交流会	16:50 学校到着、閉校式	
20:00 各家庭へ		
20:00 健康観察・就寝準備		※貸切バスは、期間中現地に留め置き。 ※各農家から体験フィールドまでは全て徒歩圏内。
21:30 消灯		

宿泊先 (5・6年ともに)	
地域名	宿 泊 施 設
新潟県十日町市赤倉集落	民泊 (約20軒) (5年生 2泊、6年生 1泊)
	※引率者も農家にホームステイする。

4. 体験活動の実施体制

(1) 学校の指導（支援）体制

(1) 専門の宿泊施設における宿泊ではなく、一般住宅家庭への宿泊となるため、児童・保護者に十分な説明（赤倉集落で行う意味や交流の意義など）を行った。

また、十分な指導体制を図るため、早い時期（4月）に現地の視察をし、職員会議で全職員に様子を伝えたり、保護者に説明会を実施したりするとともに、現地での指導者（地元の長老や鶯宮町内ボランティア）との情報交換（指導者と教職員の役割分担）を十分に行った。

(2) 地域のボランティアグループにより、農業体験の事前研修や現地における農業体験指導等の支援をいただいた。

(2) 配慮事項等（安全確保のための改善点、衛生上の留意点等）

(1) 安全確保

① 学校と受入担当となる赤倉地区とで、安全確保に向けた事前打合せ（4月実地踏査時）を実施した。

② 4月に引率予定者による実地踏査を行い、活動内容や活動場所、および児童への支援体制について協議した。

③ 緊急対応時の連絡系統を事前に十分確認した。（活動は全児童、教職員が常に一緒に行う）

④ 稲刈りで使用する鎌の安全な使用法について十分に確認し、怪我の防止に努めた。

(2) 衛生上の留意点

食物アレルギー等について事前調査をし、食事のメニュー等の事前調整を実施した。

5. 活動の成果

(1) 普段体験することのできない様々な体感活動が実施された。特に赤倉地区のすばらしい自然環境の中での稲刈り・藁草履作り等の様々な体験が子どもたちの生きる力の礎となる生きた体験となったことは最高の成果である。そのすばらしさは子どもたちの喜びいっぱいの笑顔となって現れていた。

(2) 子どもたちと地域の方々との交流は、他者と共に生きるためのコミュニケーション能力の向上だけでなく、豊かな情操を育てるためにも有効であった。

(3) 2年間でそれぞれ春と秋の農山村の自然体験ができ、より充実したものとなっている。また、赤倉地区との皆さんとの交流も2年間を通してより深まっている。（1回限りの体験活動ではなく、2年間全体を通して豊かな体験活動となっている。）

6. 保護者からの声

(1) 子どもが赤倉から帰宅して、「赤倉神楽」のことをいろいろ話してくれました。その赤倉神楽に親子共々興味を持ち、いろいろと書物などから調べてみました。鶯宮の「土師一流備馬楽神楽（はじいちりゅうさいばらかぐら）」との比較をしながらすばらしい歴史に出会い

ました。この子どもの体験のおかげで、親子の接する時間が増えました。

(2) 体験活動を通して、自分のことは自分でできるようになりました。

(3) 数多くの体験をさせていただき、感謝します。

(4) 民泊への不安は大きかったですが、無事に楽しく帰ってきてうれしい限りです。

7. 児童からの声

(1) 私は田んぼに入るのは初めてでした。なんだかすべりそうでこわかったです。慣れてくるともっともっと植えたいくなりました。

(2) 田植えの説明を聞いていて、早く田んぼに入って植えたいという気持ちになりました。植えていくうちにだんだん楽しくなりました。植えた後の田んぼがとてもきれいに見えました。

(3) わらを見たとき、このわらでぞうりができるのかなと思いました。説明を聞いても何を言っているのかわかりませんでした。地域の人に細かく教えてもらいながら何とか一足のぞうりを作り上げました。いい記念になりました。

(4) きねでもちをつくなんて今まで見たことがありませんでした。人のやるのを見ていたらやさしそうです。でも、自分がやってみるとなかなかうまくいきません。意外と難しいことが分かりました。出来上がったもちを食べたとき、特別な味がしました。

8. 取り組み前の課題とその解決策

(1) 課題

- (1) 特別な宿泊体制や活動に備えた綿密な計画の立案
- (2) 児童（知らない家庭にお世話になる不安など）や保護者（わが子が最後までちゃんと過ごせるだろうかなど）の不安の解消

(2) 上記課題に対する解決策

- (1) 早期（4月）において、引率予定者全員による実地踏査を行い、事前にきめ細かな打合せができた。また、実地踏査後も現地事務局と連絡を密にとり雨天対策も含め当日に備えた。
- (2) 全児童と全保護者が同席した事前説明会を実施した。

9. 活動地域の選定で決め手となったポイント

- (1) 体験活動や民泊の調整等が十分に行える機能を備え、安全対策が十分に講じられているなど窓口が一元化された受入態勢が整備されている。
- (2) 本校からの問い合わせや依頼に対し、迅速かつ適切に対応されている。
- (3) 自然環境がすばらしく、現地の方々がたいへん温かい。

10. 実施までの経過

*平成12年、十日町市で進めていたグリーンツーリズム事業（過疎化集落活性化事業）を知り、交流を申込み赤倉地区との交流を行っている。平成21年度で10年目を迎える。

- | | |
|--------|--|
| H21. 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議において「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」に継続応募することを決定
「事業計画書（案）」作成、事業推進組織の立ち上げ ・全引率者（管理職、養護教諭、5・6年担任）による現地実地踏査において、活動場所の確認や現地事務局との打合せの実施 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験教室保護者説明会の実施 ・5年生自然体験教室実施の延期（新型インフルエンザによる） |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・5年生自然体験教室を実施（7月3日～5日） ※サツマイモの苗植え→サツマイモ畑の除草活動 ホテル鑑賞会の実施 田植え→現地の方々が実施済 その他の活動は予定通り実施 |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・6年生自然体験教室を実施（10月3日、4日） |

1. 学校概要	
フリガナ 学校名	サイタマケンソウカシリシ カサゴシヨウダマコウ 埼玉県草加市立高砂小学校
全学級数	33学級（内 特別支援学級2学級）
全児童数	1,067名
全教職員数	65名
活動体験の観点から見た 学校環境	①本校は、東武伊勢崎線草加駅から徒歩5分、市役所にほど近い草加市の中心街に位置し、創立56年を迎え、卒業生が1万人を超える地域に根ざした伝統校である。「勢いと潤いのある天下の高砂教育」のテーマのもと先進的な教育活動に意欲的に取り組んでいる。また、その推進にあたっては、保護者、地域の協力を得て、「ふれあい写真会」や「ふれあいスキー教室」など、地域ぐるみの行事も活発で、さまざまな体験活動についてバックアップ体制が確立されている。 ②草加市の中心のため、周辺は住宅地であり、森林はおおか公園にも木々が少なく、身近な自然という点では、街路樹、住宅街、住宅の庭に生えている樹木、そして、本校のわずかな樹木程度である。したがって、自然体験を実施するのは困難な状況である。ただ、市内北東部には、水田は広がる地域があり、また、学区内にも多少であるが、野菜づくりの畑が点在しており、サツマイモ掘り、クワイ掘りなどの農業体験も可能である。
連絡先	住所 埼玉県草加市中央1-2-5
	電話番号 048-924-3425
	FAX番号 048-924-3426

2. 活動に関する学校の全体計画	
対象学年・児童数	第6学年 204名
実施時期	平成21年10月26日（月）～29日（木）
活動場所	福島県昭和村、金山町、会津若松市
活動のねらい	(1) 自然豊かな福島県昭和村・、金山町での生活体験を通して、自然と共存している村の人々の生活を理解させるとともに集団生活の充実感を感受させ、連帯感や仲間意識の向上を図ることができるようにする。 (2) 昭和村・金山町での生活を通して、草加での自分たちの生活の中で、身近な自然環境とどう向き合って生活していくかを考えることができるようにする。 (3) 昭和村・金山町の郷土の体験学習を通して、郷土文化に親しむと同時に、その土地の人々の知恵を享受し、これからの学習や生活に生かせるようにする。 (4) 集団行動を通して、お互いに協力し合って活動することの大切さを体感するとともに、時と場をわきまえた行動と計画性を養うようにする。
児童一人当たりの概算費用	児童一人当たりの費用 40,000円 事業費助成（文部科学省） 20,000円 保護者負担 20,000円

体験活動名	全活動時間 (時間)	教育課程上の位置づけ	児童の活動内容
味噌作り	1	総合的な学習の時間	屋内の施設で材料から味噌を作る工程を体験的に学習する。
そば打ち	1	総合的な学習の時間	屋内の施設で材料からそばを作る工程を体験的に学習する。
大根掘り	1	総合的な学習の時間	地元農家の畑で、収穫作業を体験する。
きのこ採り	1	総合的な学習の時間	山林に赴き、自生するきのこを収穫する。
からむし織り	2	総合的な学習の時間	地元の特産品である「からむし」を使った織物を作る体験をする。本にはさむしおり作りをした。
自然を描く（スケッチ）	1	総合的な学習の時間	紅葉した山々や透き通る小川等をスケッチする。
赤べこ作り	1	総合的な学習の時間	会津地方の伝統工芸である「赤べこ」作りを体験する。絵付けを行った。
自然探し（ハイキング）	2	理科	約2万年前にできた沼の周囲を散策し、植物の群落や野鳥等の観察をする。
会津若松城見学	2	社会	会津若松城内の展示品を見学し、ワークシートにわかったこと気付いたこと等を記入する。
日新館体験学習	2	社会	会津藩校「日新館」で講話を聴いたり、展示物を見学したりする。ワークシートに気付いたことを記入する。

3. 活動内容	
事前指導	(1) 6月：総合的な学習の時間「すくすくタイム」を利用して調べ学習をスタートする。 テーマを「昭和村博士になろう！」に設定する。 ※夏休み中の8月下旬に、第6学年担任による実地踏査を実施し、活動計画の修正・見直しを学年で検討する。 (全4回) (2) 9月：テーマを「昭和村博士になろう！」から「埼玉県の産業と昭和村の産業を比べよう！」に発展させ、調べ学習を継続する。 9月下旬：保護者向けの説明会を実施する。 10月上旬：しおりを作成後、児童向けの説明会を実施する。
事後指導	(1) 11月：総合的な学習の時間「すくすくタイム」で、体験活動の振り返りを行った。形式は、各グループで決め、劇、紙芝居、リーフレット等様々である。 (2) 11月15日(日)に開催された「福祉まつりin草加」に参加し、「豊かな体験活動」について代表児童が、野外ステージにて発表を行い、地域や市民の多くの方から高い評価を得ることができた。

宿泊先	
地 域 名	施 設 名
昭和村	松屋、しらかば荘、ペンション美女峠(2泊)
金山町	朝日屋、こばやし、みやもと、とも、亀六、沼沢湖山荘(2泊)
会津若松市	東山グランドホテル(1泊)

日程		
1日目(10月26日)	2日目(10月27日)	3日目(10月28日)
07:00 出発式 07:15 学校出発 11:05 会津若松市 日新館到着。 昼食後、日新館を見学。 13:30 日新館出発 15:20 昭和村到着 15:30 歓迎セレモニー(昭和村公民館) 15:50 各民宿へ移動 17:00 夕食 18:00 温泉・民話ツアー(2・3・4組) (1・5・6組はフリータイム) 21:00 消灯	06:00 起床 07:00 朝食 08:00 バスで体験活動場所へ移動 08:30 体験活動①② 12:30 昼食 13:00 体験③④ 16:30 体験終了 17:15 夕食 18:00 温泉・民話ツアー(1・5・6組) (2・3・4組はフリータイム) 21:00 消灯	06:00 起床 07:00 朝食 08:00 バスで体験活動場所へ移動 08:30 体験活動⑤⑥ 10:45 バスで会津へ出発 12:10 鶴ヶ城見学 14:30 鶴ヶ城出発 14:40 番匠到着(赤べこ作り体験) 16:00 番匠出発 16:30 ホテル到着 17:45 夕食 19:00 入浴
4日目(10月29日)	5日目(月 日)	6日目(月 日)
06:00 起床 07:00 朝食 08:00 退館式 08:30 出発 09:15 野口記念館見学 10:00 野口記念館出発 11:15 あぶくま洞見学 12:15 あぶくま洞出発 12:25 昼食 13:20 出発 16:50 高砂小学校到着 17:00 解散式 17:15 下校		

4. 体験活動の実施体制

(1) 学校の指導(支援)体制

- ①学校を挙げて、次のとおり体制整備を行った。
- ・事前指導・事後指導、準備・片付け等について全職員で対応した。
 - ・活動内容や農作業等で助言を得る場合、学校評議員、保護者、地域や学校応援団の理解や協力を得られるようにした。
 - ・実施時期が10月下旬の授業期間中であつたが、校内の協力体制を整え、校長をはじめ養護教諭1名、学級担任6名、担任外職員6名のほかに特別支援学級児童へのボランティア1名の合計15名の引率教員等を配置した。

(2) 配慮事項等(安全確保のための改善点、衛生上の留意点等)

- ①安全上の留意点
- ・「奥会津山里体験推進協議会」を基地として、緊急時の対応に備え、常に学校職員とボランティアの人たちと連絡がとれるようにした。
 - ・「お迎え保険」に加入し、児童の事故やけが、急な病気に備えた。
- ②衛生上の留意点
- ・インフルエンザ対策として、バス乗車の際に、アルコールによる手・指消毒を実施した。
 - また、車内ではマスクを着用させるとともに、うがい・手洗いを徹底させた。

5. 活動の成果

- (1) 自然豊かな昭和村での生活体験を通して、自然と共存している昭和村の人々の生活の様子について、共感しながら理解することができた。
- (2) 郷土の体験学習を通して、昭和村の郷土文化や人々の知恵について学ぶことができた。
- (3) 3泊4日の宿泊を伴う集団行動を通して、お互いに協力し合う大切さやマナーについてより深く学ぶことができた。
- (4) 様々な体験を通して、新たな技能が身につく、興味・関心の範囲が広がった。
- (5) 事後報告会を「農山村体験を振り返ろう」という形で実施し、保護者、地域の方々に活動について広めることができた。

6. 保護者からの声

- (1) 子どもたちが、草加では体験できない貴重な体験をすることができてよかった。家でも、「また行きたい」「またやりたい」と言っていた。
- (2) とってきた大根を家族でおいしく頂いた。また、学校でのたくあん作りもよいと思った。試食が楽しみ!
- (3) 体験後、子どもが味噌を使った料理に関心をもつようになった。自分たちでつくった味噌を早く味わいたいと言っていた。
- (4) 行く前に、農作業等について不安もあったが、帰ってきた子どもの様子がとても楽しそうだったので、行かせてよかったと改めて思った。
- (5) 子どもの思い出話を聞いて、家族でも楽しめると感じ、家族旅行で昭和村へ行くことにした。

7. 児童からの声

- (1) この2泊3日の農山村体験は、私たちにとても貴重なものとなった。自然とともに生活をしている昭和村の人たちのやさしきや温かさ、そして、生活の知恵などに触れることができた。この体験で学んだことを生かして、残りの小学校生活をしっかりと過ごしていきたいと思う。
- (2) 味噌造りは、初めてでこんな風に味噌を造っているんだなあと思った。また、味噌造りはとても楽しくて勉強になった。

8. 取り組み前の課題とその解決策

(1) 課題

- ①市内に同様に豊かな体験活動に取り組む小学校が無かったため、子ども達に合理的に時間が使えるか不安であった。
- ②教育課程、学習指導等とのリンクをどうするかが課題であった。
- ③昭和村や金山町の情報が乏しかった。
- ④子ども達は農業への知識が不足している。

(2) 上記課題に対する解決策

- ①教科のとり方を調整し、2クラス毎に行う活動と学年全体で行う活動を組み、工夫した。
- ②全て「総合的な学習の時間」とすると時間制限があるため、教科にカウントしてバランスを図った。
- ③昭和村や金山町についてインターネット等を活用して事前調査をした結果得られた資料や写真を児童に提供し、具体的なイメージをつかめさせた。
- ④草加市の農業を児童に調べさせ、昭和村との比較学習を行った。

9. 活動地域の選定で決め手となったポイント

草加市は昭和村・金山町と姉妹都市としての友好関係を締結していた。
折りしも自然環境のなかで体験活動の充実を図ることを目指していた本校では、自然が豊かな地域に移動し、宿泊を伴った形で実施することが効果的であると考え、それを具現化できる、すばらしい自然に恵まれた地域として昭和村と金山町を選定した。

10. 実施までの経過

- H21. 3 学校長より「豊かな体験活動推進事業」に応募することを決定。
- 4 文部科学省より「豊かな体験活動推進事業」の内定通知を受理。
- 第1回保護者説明を開催。(事業内容の説明)
- 7 第1回 現地事前調査を実施。第2回保護者説明を開催。
- 8 第2回 現地事前調査を実施。
- 9 第3回 現地事前調査を実施。第3回保護者説明を開催。

1. 学校概要		
フリガナ 学校名	タイナシワフ ナカジヨウガッコウ 胎内市立中条小学校	
全学級数	22学級	
全児童数	630名	
全教職員数	32名	
活動体験の観点から見た 学校環境	胎内市の中心部に位置しながら、校区の北側には胎内川が流れ、東側には日本一小さな櫛形山脈があり、自然環境にも恵まれている。 学校の東側を国道7号線とグラウンドが接しており、新潟県と山形県を結ぶ幹線道路のため交通量も多くなっている。また、西側にJR羽越線・中条駅もあり、南北に走る国道とJR線に沿うような形で校区が形成されている。そのため、校区内は住宅地や商業地が多く、農業体験やフィールドワークなどの自然体験を行う機会が少ない。しかし、胎内市全体を活動のフィールドと考えた場合、そこには豊かな自然、豊かな体験活動の場があり、胎内市教育委員会との連携で、速やかに実施できる環境が構築されている。	
連絡先	住所	新潟県胎内市大川町16-56
	電話番号	0254-43-2042
	FAX番号	0254-43-2670

2. 活動に関する学校の全体計画		
対象学年・児童数	第5学年・122名	
実施時期	平成21年9月7日（月）～11日（金）	
活動場所	新潟県胎内市	
活動のねらい	(1) 胎内市の自然や文化、社会条件を活用する体験活動を通して、「ふるさと胎内市のよさ」を再発見し、地域を愛する心をはぐくむ。 (2) 自分たちが住む胎内市での農村宿泊体験や、地域の方との交流を通して、主体的にコミュニケーションをとろうとする能力を培う。（民泊の効果） (3) 集団生活の中で互いに協力したり、自分の役割に責任をもって取り組んだりして、友達や自分のよさに気づき、互いに認め合う人間関係を築く。 ※胎内市の教育理念としての「人をつくる」「地域をつくる」が根底にある。	
児童一人当たりの概算費用	児童一人当たりの費用	41,385円
	事業費助成（文部科学省）	36,223円
	保護者負担	5,162円

体験活動名	全活動時間 （時間）	教育課程上の位置づけ	児童の活動内容
農業体験	4	社会	宿泊先の農家（以下、農泊先と表現）で、やわはだねぎや枝豆を収穫したり、稲の除草や家畜の世話をしたりした。
食事づくり体験	2	家庭科	家庭科で学習したご飯や味噌汁作りを活用して、農泊先の方と一緒に食事をつくる。
農泊先交流活動のまとめ	2	国語	国語で学習した表現方法を活用し、農泊先での体験や交流をまとめたり、お礼の手紙を書いたりした。
米粉製粉工場見学体験	1	社会科	米を米粉に加工し、新たな生産品の開発を図っている地元の工場の様子を見学した。
米粉ピザづくり体験	1	家庭科	地元で製品開発された米粉を使ったピザ作りを実際に体験した。
ぶどう収穫体験	2	社会科	地元でぶどう等が生産されていることを知り、生産の苦労を聞いたり、収穫体験をしたりした。
油田見学体験	2	社会科	古くから地元で原油がとれている事実やその歴史に触れ、郷土の歴史の一端を学習した。
課題別学習体験とまとめ	8	総合的な時間6、国語2	産業・歴史、自然・環境、食文化コースの3つに分かれ、各自の課題に基づき、ヤギの搾乳など体験を通して、追究した。
星空観察会	1	理科	理科で学習した星座の動きについて、講師に指導してもらった。
キャンドルファイヤー	1	特別活動 （学級活動：学年集会）	実行委員会で企画したキャンドルファイヤーを実施し、4泊5日の体験学習で学んだことや感じたことを交換し合った。
野外炊さん	2	家庭科	家庭科での学習を活かし、グループごとにかまどでご飯を炊いたり、カレーをつくったりした。

3. 活動内容

事前指導	(1) オリエンテーションと学年テーマの設定 昨年度の活動の映像や資料を見ながら、今年度の活動への見通しをもたせた。その後、活動への学年テーマを話し合い、決定した。 (2) 計画の概要説明や各自の課題の設定、役割分担 活動の計画を説明した後、各自が活動の課題を設定し、課題ごとのグループで活動目標の設定や役割分担を行った。 (3) 体験活動のルール確認や農泊先への手紙の作成 農泊先での体験、課題別の体験活動等で気を付けることを確認したり、農泊先でお世話になる班全員の紹介、学校紹介、楽しみにしていることなどを手紙に綴り、意欲付けを図った。 (4) 諸活動のリハーサルや事前アンケートの実施 事前に、あいさつを含めた農泊先の家族との接し方、活動の進め方などのリハーサルを行った。また、郷土の自然や文化、人とのかわり、自他の変容を見るため、事前アンケートを実施した。
事後指導	(1) 活動の振り返りとまとめの実施 各自が体験した活動について振り返り、人や自然のすばらしさ、人と触れ合うことの心地よさ、郷土のよさについて学んだこと、体験から得たことをまとめた。また、3つのコースに分かれた課題別学習を、総合的な時間の中間のまとめとした。 (2) 礼状と収穫祭へ向けた招待状づくり お世話になった農泊先の方との交流を通して、人の温もりやすばらしさを感じた。その思いをお礼状に表現した。同時に、学校借地田で育てた米を使った収穫祭（カレーライスの会食、4泊5日の体験活動発表会）を計画し、感謝の気持ちをもって農泊先の方を招くための招待状も作成した。 (3) 収穫祭での活動発表 総合的な学習の時間「ふるさと胎内市のよさを知ろう」の中間発表会の形式をとり、4泊5日の体験活動で学んだことを、招待した農泊先の方々や保護者を対象に活動発表を行った。 (4) 事後アンケートの実施 事前アンケートと同様の項目で、変容を見るため、児童を対象にアンケートを実施した。また、保護者の視点からも活動を評価してもらえるように、保護者アンケートも実施した。

宿泊先

地 域 名	施 設 名
新潟県胎内市	宿泊受け入れ先農家26軒 胎内アウレツ館

日程

1 日目 (9 月 7 日)	2 日目 (9 月 8 日)	3 日目 (9 月 9 日)
9:30 学校 発 9:00 胎内アウレツ館 着 ・オリエンテーション 10:30 米粉工場見学 (共通体験Ⅰ) 12:00 昼食 13:00 農泊体験の説明 14:30 農泊先に順次到着 ・農村生活体験 18:30 夕食 ・農泊先の家族との団楽 22:00 就寝	6:00 起床 ・朝食準備や手伝い 7:00 朝食 8:30 農泊先から順次出発 9:30 胎内アウレツ館 着 10:00 米粉ピザ作り体験 12:00 昼食 13:30 ぶどう収穫体験 (共通体験Ⅱ) 15:30 シンクルトン記念公園にて 油田見学体験 (共通体験Ⅲ) 16:00 農泊先に順次到着 ・農村生活体験 18:30 夕食 ・農泊先の家族との団楽 22:00 就寝	6:00 起床 ・朝食準備や手伝い 8:30 農泊先から順次出発 9:30 胎内アウレツ館 着 ・宿泊部屋確認、荷物整理 10:30 共通体験ⅠⅡⅢのまとめ 12:00 昼食 13:30 テーマ別学習へ出発 14:00 テーマ別学習① ・産業 (畜産飼育)、自然 (昆虫、 自然観察)、食文化 (摘み草、 笹団子材料づくり) コース 16:30 胎内アウレツ館 着 17:00 テーマ別学習の資料整理 18:00 夕食 19:00 星空観察会 20:30 入浴 22:00 就寝
4 日目 (9 月 10 日)	5 日目 (9 月 11 日)	
6:30 起床 7:00 朝の集い 7:30 朝食 8:00 班長会議 9:00 テーマ別学習②へ出発 9:30 テーマ別学習② ・産業 (ヤギの搾乳、アイスクリーム作り)、自然 (散策、ネイチャーゲーム)、食文化 (笹団子づくり) 12:00 昼食 13:30 テーマ別学習①②のまとめ 16:00 キャンドルファイヤー準備 17:30 夕食 18:10 班長会議、班会議 19:00 キャンドルファイヤー 20:40 入浴 22:00 就寝	6:30 起床 7:00 朝の集い 8:30 清掃、荷物整理 9:20 野外炊さんの準備 10:00 野外炊さん 12:00 昼食 14:20 別れの集い 14:30 胎内アウレツ館出発 15:00 学校 着	

4. 体験活動の実施体制

(1) 学校の指導（支援）体制

- (1) 学校の推進体制
- 初めての長期宿泊体験であるため、保護者や児童の不安解消、実施学年への負担軽減のため、4泊5日ふるさと体験学習特設委員会（校長、教頭、主幹教諭、教務主任、5年担任、養護教諭、事務主査）を設置し、計画から実践、予算編成や執行まで全校体制で支援した。
 - 計画作成、実践に当たり、胎内市教育委員会、市農林水産課、胎内アウレツ館との連携を図り、円滑に体験活動ができるような体制づくりを行った。
- (2) 保護者への説明等
- 保護者対象に4泊5日宿泊体験活動の趣旨や概要説明、実施する体験活動や経費、直前説明会と、3回に分けて説明会を実施した。
- (3) 活動ボランティアの募集
- 保護者を対象に、野外炊さんの際の活動ボランティアを募集した。

(2) 配慮事項等（安全確保のための改善点、衛生上の留意点等）

- (1) 安全確保
- ① 学校と受入窓口である胎内アウレツ館とで、児童の安全確保についての打ち合わせを、事前、活動中と頻繁に行った。（事前に1軒ずつ農家をまわり、子どもの健康状態等についてしっかりと伝えた。）
 - ② 学校と同一市町村内で体験活動が行えるという利点を活かし、農泊先には1回、他の体験施設は複数回の下見を行った。その際、農泊先に配慮を要する児童の状況について事前に知らせ、対応の共通理解を図った。
 - ③ 事故発生等、緊急対応時における連絡体制を整えた。
- (2) 衛生上の留意点
- ① 食物アレルギーや既往症、健康上の留意事項について事前調査を行った。
 - ② 毎朝、検温等の健康観察を行い、病気の予防に努めた。
 - ③ 実習前後、食事や調理の前に、手洗いを徹底した。

5. 活動の成果

- (1) 活動後の児童アンケートの結果は次のとおりであった。
- ① 胎内市について興味・関心が高まった（94%）
 - ② 課題を持って取り組めた（88%）
 - ③ 分からないことは進んで質問した（92%）
 - ④ 友達と協力して活動することができた（98%）
 - ⑤ 体験したことを相手に分かりやすく発表することができた（81%）
- 活動前よりも割合が上昇した。地域の人々とかかわり、人や自然と地域がもつ魅力にたくさんふれることができたことで、子どもの充実感・満足感につながった。
- (2) 初めて出会った農家の方々と、農作業や夕食の支度、団らんを2泊に渡って体験したことで、積極的ななかかわりが生まれ、コミュニケーション能力の高まりが見られた。
- (3) 農作業や課題別学習を通して、食べ物の大切さを再認識した。
- (4) 長期宿泊体験の間、友達と生活を共にすることで、わがままをせずに協力すること、相手を思いやることなど、体験を通して社会性が身に付いてきた。

6. 保護者からの声

- (1) 農泊体験はとても貴重な体験となり、本当によかったと思いました。その他の体験も一つ一つが胎内市を知り、好きになれる学習だなと感じました。
- (2) 心配しながら送り出した「つばさっ子体験隊」（長期宿泊体験活動の校内名称）でしたが、ひとまわり大きくなり、すてきな笑顔で帰ってきたのでよかったです。
- (3) 体験後、家でご飯を炊いたり、豚汁をつくったりと、お手伝いをするようになりました。
- (4) よそのお宅にお世話になるということで、あいさつや返事などが心配でしたが、うまくできたようでほっとしました。
- (5) 子どもが5日間も家にいなかったことは、親も初めての経験でした。離れている間、とてもさびしく、子どもへの愛おしさを改めて実感しました。

7. 児童からの声

- (1) 初めての経験できんちょうしたけど、農作業の大変さが分かったし、農家の方にやさしく教えていただいて、うれしかったです。
- (2) 初めて会う人にも、あいさつをすることができるようになりました。
- (3) 食事の時の礼儀作法に気を付けるようになりました。
- (4) 分からないことを聞いて、解決できました。皆さんがやさしく教えてくださいました。
- (5) 友達と協力することは大切だと思いました。自分勝手なことは迷惑がかかるということを感じました。
- (6) 胎内市には、すばらしい自然や施設があり、あたたかい心の人が大勢いることが分かりました。

8. 取り組み前の課題とその解決策

(1) 課題

- (1) 初めての長期宿泊体験であり、児童・保護者とも不安があった。
- (2) 2泊する農泊先の確保、長期宿泊体験の活動メニューを決めることに難しさを感じていた。
- (3) 長期宿泊体験を行う際、教育課程の編成をどのように進めるか、実施学年への支援体制をどのように組むか、難しさがあった。

(2) 上記課題に対する解決策

- (1) 受入窓口との情報交換を密にし、保護者への説明会を3回実施したり、子どもたちへの情報提供をこまめに行った。
- (2) 受入窓口や市教育委員会、前年度の実施学年との打ち合わせや情報交換を実施し、児童の成長のために活動を構成できるよう工夫を重ねた。
- (3) 4泊5日ふるさと体験学習特設委員会を校内に位置付け、校長の指導を受けながら、実施学年以外に教育課程の編成や予算編成、実施学年への人的な支援体制の確立等、全校体制でサポートする体制をつくった。

9. 活動地域の選定で決め手となったポイント

- (1) 胎内グリーンツーリズムやアウレッツ館、胎内市教育委員会、同農林水産課と、胎内市を挙げての受け入れ態勢が整備され、体験活動の紹介や農泊先の斡旋等のシステムがしっかり整備されている。
- (2) 本校のある市内は、自然や歴史、文化的な学習材が豊富にあり、講師等の支援体制も充実している。
- (3) 活動場所が本校から近く、時間的距離も適切である。
- (4) 消防署や警察署、病院などの医療機関も市内にあり、安全面や医療面の対策が容易にとれる。

10. 実施までの経過

- H21.1 校内職員会議で、「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」に継続希望することを決定し、回答した。
- 4.17 「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」への決定通知を受理した。
- 4.20 胎内市教育委員会主催「ふるさと体験学習（宿泊体験活動）」説明会で、4泊5日宿泊体験活動の概要説明を受けた。
- 4.22 校内特設委員会を開催し、説明会の概要を聞き、市教育委員会や胎内アウレッツ館と調整を図りながら、計画を立案することを決定した。
- 4.28 学習参観日を活用して、第1回保護者説明会を開催し、4泊5日宿泊体験活動の趣旨や指定までの経緯、活動の概要を説明した。
- 6 胎内アウレッツ館と打ち合わせながら、日程や実施する体験活動の計画、予算案を立案した。
- 7.3 第2回保護者説明会を開催し、昨年度の体験活動の写真やプレゼンテーションを使い、活動や経費の概算説明を行った。
- 7.6 校内特設委員会を開催し、4泊5日宿泊体験活動に係る予算の決定を行った。
- 8 夏季休業を活用し、現地調査、体験活動場所、宿泊施設の確認を、関係機関と行った。
- 8.28 第3回保護者説明会を開催し、農泊先や日程、持ち物、活動についての詳細説明や質疑応答を実施した。